

鈴木優 プロフィール

- 1958年10月1日 東京都板橋区に生まれる。生家は畳屋であった。
- 1971年4月 板橋区立板橋第二中学校入学。吹奏楽部に入部しホルンを吹くこととなる。
- 1974年4月 東京都立赤城台高等学校入学。希望していた吹奏楽部がなかったため、やむをえず合唱部に入部。高校一年の二学期に将来の進路として音楽の道に進むことを考えるが、音大受験にピアノが弾けなければならないことを知り愕然とする。深く悩んで一般教科の成績が急落（当時バイエルも知らなかった）。
- 1977年4月 東京藝術大学音楽学部声楽科入学。入学試験の疲労と緊張から夏休み中に帯状疱疹を発症するなど、体調を崩す。
- 1979年4月 出身小学校（板橋区立板橋第五小学校）PTA の合唱団を指導。初めて合唱の指導で謝礼をいただく（現在に至る）。
- 1982年3月 一年留年の後、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。
- 1982年4月 東京混声合唱団に入団（1984年3月 退団）。
- 1988年4月 つくば古典音楽合唱団音楽監督就任（現在に至る）。
- 1989年5月 真澄会コーラス部（旧満州国奉天浪速高等女学校の同窓会組織）の指導を開始（会員の高齢化にもかかわらず、現在に至る）。
- 1991年2月 初のヨーロッパ旅行を行う。45 日間でアムステルダム～ハンブルク～ベルリン～ドレスデン～ライプツィヒ～ニュルンベルク～ウィーン～ザルツブルク～パリ～ブリュッセルを回る。
- 1991年7月 フィラデルフィアでの「第2回国際声楽指導者会議」を視察。
- 1992年7月 ゲッティンゲンのゲーテ・インスティトゥートで語学研修（8週間）。
- 1992年9月 アウグスブルクでアルベルト・グライナー・ジングシューレの「合唱指揮者と声楽指導者のためのセミナー」に参加。セミナー修了後もアウグスブルクを中心として遊学（1995年2月 帰国）。
- 1998年5月 水戸芸術館「茨城の名手・名歌手たち」第9回に出演。
- 2001年4月 茨城県立取手松陽高等学校音楽科非常勤講師として奉職（2007年3月 退職）。
- 2002年4月 「鈴木優の会」と題したリサイタルシリーズを開始（現在、其の六まで進行中）。
- 2006年4月 聖徳大学大学院音楽文化研究科博士前期課程入学。
- 2008年3月 聖徳大学大学院音楽文化研究科博士前期課程修了。
修士論文として「シューベルト《白鳥の歌》のハイネ歌曲にみる表現の独自性」を提出。修了演奏としてシューベルト《白鳥の歌》より8曲の歌曲を演奏。
- 2008年4月 聖徳大学大学院音楽文化研究科博士後期課程入学。
- 2012年3月 聖徳大学大学院音楽文化研究科博士後期課程修了。学位論文「シューベルトの歌曲におけるドッペルドミナント和音の用法」と《冬の旅》全曲演奏により博士号取得。
- 2014年9月 臀筋から背筋に及ぶ広範囲の腰痛を発症。
- 2016年4月 尚美学園大学および大学院講師となる。
- 2017年9月 「歌の愉しみ あれこれ」と題したリサイタルシリーズを開始（現在、第4回まで進行中）。
- 2017年11月 聖グレゴリオの家にて坂由理先生にチェンバロを習い始める。
- 2018年7月 大腸憩室出血のため4日間入院する。

これまでに、藝大時代には吉岡巖先生、聖グレゴリオの家では教会音楽を中心として橋本周子先生、また音声学の知識も含めて教えていただいた山田実先生、そして聖徳大学大学院では高橋大海先生、平野忠彦先生といった諸先生方に声楽を師事いたしました。また神戸愉樹美先生および坂由理先生に古楽演奏法について教えを受けました。

滞独中にはアウグスブルクでは、かつてのシュトゥットガルト歌劇場のソプラノ歌手であったリゾレッテ・ベッカー・エグナール先生に師事する他、ドイツおよびオーストリア各地でヴァルター・ベリー、シャルロッテ・レーマン、クルト・ヴィトマー、シルヴィア・ゲステー、ジェームス・ワーグナー、リチャード・ミラー、クラウス・オッカーの各氏のマスター・コースを受講しました。